

## ブランパンが、ゴンベッサチームおよびモカラン保護協会による共同プロジェクト、初の「タマタロア」ミッションの舞台裏をご紹介します

ブランパンが支援する「タマタロア」(フランス領ポリネシアに棲息する巨大シュモクザメの現地名)プロジェクトは、絶滅危惧種であるこの動物の生態を研究することを目的とした 3 年におよぶイニシアチブで、フランス領ポリネシアおよびサメの回遊ルートにおける保護プロトコルの開始を目指しています。ブランパンは、ジャン-マリー・ジャンデル率いるモカラン保護協会と協力関係にあるローラン・バレスタ氏と「ゴンベッサ」調査探検チームが制作したビデオブログ シリーズを発表します。2022 年および 2023 年には、それぞれ重要な追加調査遠征が行われる予定です。

2014 年、マーク A. ハイエックはテクニカルダイバー認定を取得しました。認定取得に向けた最後のテストダイビングの終盤、巨大なシュモクザメ（ヒラシュモクザメ）が突然深海から現れ、ハイエックのすぐ近くを通り過ぎていく束の間、目と目が合う瞬間がありました。地元の人々が海の守り神と呼ぶ動物にこのような歓迎を受けたことに、ブランパン社長兼 CEO は感銘を受けます。

彼にとっては信じがたいことでしたが、これが最後の出会いとなる可能性がありました。というのも、この神秘的で極端に人目を避ける種は、個体数の減少に伴い、絶滅のリスクが非常に高く、世界中で絶滅危惧種として IUCN のレッドリストに掲載されているのです。結果として、ブランパンおよびマーク A. ハイエック個人として行動を起こすことにしました。

最初の一步は、ヒラシュモクザメにとって重要な地域でありながら、この種の生体に関する知識がほとんど無いフランス領ポリネシアにおいて、現状調査のためのローカル組織、モカラン保護協会（MPS）の設立を支援することでした。モカラン保護協会の最初の 2 つの観測および研究ミッションによって得られたデータは、ローラン・バレスタ氏と「ゴンベッサ」調査探検チームが合同で実施した 3 年におよぶ野心的なプロジェクトのきっかけとなり、大きな支えにもなりました。

ブランパンによるこの共同事業は、アメリカ、ヨーロッパ、オーストラリアの著名なサメ専門家たちによる科学的専門知識の恩恵を受けることとなります。これはまた、多数の重要な調査結果が得られたゴンベッサ IV 遠征の場合にも当てはまりました。その調査結果の中には、初観測されたオグロメジロザメの群れによる狩猟行動も含まれていました。高い評価を得たドキュメンタリー映画『闇に溶け込む 700 匹のサメ』は、エミー賞へのノミネートを含む 70 以上の国際的な賞を受賞しています。

新しいプロジェクト「タマタロア」の目的は、知識、理解、意識を生み出すことです。さらに、フランス領ポリネシアやその他の地域のヒラシモクザメは移動性の高い種であるため、効果的な保護を行えるように、該当地域および国際機関に特定の管理ツールを提供したいと考えています。また、これは世界的な音響検知ネットワークに大きく貢献するだけでなく、この種をはじめとしたその他の種のサメを研究するための革新的な研究プロトコルも提供します。